

## 令和2年度医学部医学科卒業証書・学位記授与式を執り行いました

令和3年3月25日(木)、長崎大学医学部記念講堂にて、令和2年度 医学部医学科卒業証書・学位記授与式が執り行われ、116名の卒業生が新たな門出を迎えました。

新型コロナウイルスの感染拡大防止に最大限配慮するため、卒業生と一部の関係者のみが参加しました。

前村浩二医学部長の祝辞では、「世界的パンデミックの中、感染制御に注意し規模を縮小してではあるが、皆さんと顔を合わせ、満開の桜のもと祝福できることをうれしく思う。思い起こせば医療は感染症との戦いであり、ペスト、天然痘、スペイン風邪等の感染症を克服してきた。この新型コロナウイルスについても、医療がどのように立ち向かっているかを自分の目で観察して欲しい。そして、『医師は自らの天職をよく承知していなければならぬ。ひとたびこの職務を選んだ以上、もはや医師は自分自身のものではなく、病める人のものである。もしそれを好まぬなら、他の職業を選ぶがよい。』という長崎大学医学部の開祖ポンペ・ファン・メールデルフォールトの言葉を胸に刻み、その背景にある精神を、これから医療人となる中で持ち続け、長崎大学医学部生としての誇りを持って、医学界で羽ばたいてほしい。」と述べられました。

また、卒業生代表の井上知晃さんからは、「最後の1年間は大変厳しい年だった。連日報道されていた、自らも感染するリスクがある中、使命感で現場に立ち続ける医師の姿は、『もはや医師は自分自身のものではなく、病める人のものである。』というポンペの言葉をまさに体現していた。これから進む道のりは、陰しく、時として過酷であるかもしれない。しかし、己の良心に基づいて自らを律し、苦境においても天を恨まず、人を憎まず、病める人の為に、不安や心配事を抱える人の為に勇み立つことができるようこれからも学び続けていきたい。」と答辞が述べられました。

長崎大学医学部医学科は、医療人になるための一歩を踏み出された卒業生の皆様の門出をお祝いし、今後のご活躍とご健勝を心より祈念いたします。

卒業生の皆様、本当におめでとうございます！



学長の告辞（オンライン）



代表者による卒業証書・学位記授与  
（平野 藍）



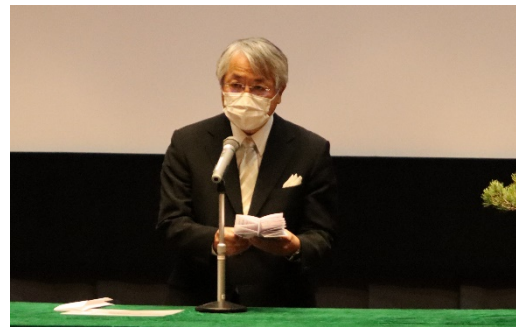
ポンペ賞の授与  
（井上 知晃）



ポンペ賞の授与  
（浦 華子）



ポンペ賞の授与  
（梅村 ゆりあ）



前村医学部長による祝辞



中尾病院長による祝辞



卒業生答辞  
(井上 知晃)



卒業生からの記念品贈呈  
(平野 藍)